

校舎改築情報第8号（令和7年11月1日）

《コラム 校舎の歴史①》

昨年秋から始まった旧校舎解体工事も無事終了し、現在は「ひとやすみ」の状態となっています。そこで、今号では校地・校舎の歴史を少し振り返ってみたいと思います。

本校学校要覧の沿革には、以下のような記載があります。

- ・昭和 5 年 4 月 2 7 日 第 1 回入学式挙行並びに授業開始。
- ・昭和 1 2 年 6 月 2 0 日 台町 2 3 7 番地の新校舎に移転。
- ・昭和 2 0 年 8 月 2 日 戦災により校舎全焼。
- ・昭和 2 0 年 9 月 1 5 日 臨床実習室において授業を開始。

本校は昭和5年に開校し、当初は上野町にあった市立商業公民学校（夜間制）の4教室を昼間だけ借りて授業を行っていました。生徒は総勢19名、教諭1名（後の第3代校長、深沢洋治郎氏）、時間講師2名で私立八王子盲学校が誕生しました（設立者は八王子市社会事業協会）。初代校長は八王子市長の武藤文吾氏でした。

その後、紆余曲折を経て、昭和12年に現在の場所に校地を構え自前の校舎を建設することができました。自らも視覚障害があり地元の素封家であった立川吉五郎氏から、氏が所有する畑地500坪の土地を寄贈していただき、校舎は地元の土木建築業者青木孝太郎氏の全面的な寄付によって建てられました。たまたま八王子市立第七小学校の校舎改築があり、その解体木材を使用して校舎を建築さ

れたそうです。昭和１５年には関山専吉氏が所有していた校地北側の隣地を無償・無期限で借用し、その場所（校地の西北隅）に臨床実習室を建築し、翌１６年から臨床実習を開始しました。

その校舎も昭和２０年８月１日夜半から翌２日未明にかけて起きた八王子空襲により、わずか２０坪の臨床実習室を残し、他はすべて焼失してしまいました。当時の在校生は総勢４１名でしたが、夏休みだったこともあり、八王子盲学校では犠牲者が一人も出なかったことが不幸中の幸いでした。そして、終戦からまだ一か月しか経たない９月１５日には、焼失を免れた臨床実習室で授業が再開されています。その当時の関係者の御苦勞が創立３０年誌の記事から窺い知ることができます。

『長かった戦争も、昭和二十年八月十五日、漸く終止符が打たれた。それから一ヶ月を経た九月十五日、焼失をまぬがれたわずか二〇坪余の治療所で授業は再開された。出校した生徒は数人であつたが、国内の状況は混沌として、職員も生徒も困苦欠乏とたたかわなければならなかつた。学校長をはじめ、職員は、一束の薪を得るために、一くくりのたくあんを買うために、近郊の農家に足を運び片時も心身休養の暇すらなかつた。』（原文ママ）

さまざまな御縁と多くの方々のお力添えにより現在の八王子盲学校があることに感謝し、これからも地域に愛される学校を目指して参ります。引き続き御支援・御協力をお願いいたします。

写真① 創立当時の記念写真（昭和5年撮影との記録があります）

校舎を背景に生徒、教職員で記念撮影している写真です。前列中央の着物を着ていらっしゃる方が武藤文吾校長、その左側には深沢洋治郎先生、その他講師の先生2名と生徒15名が緊張した面持ちで整列しています。左側には「八王子盲学校」の看板も写っています。



写真② 旧校舎があった場所の風景（１０月２８日撮影）

昭和５年から現在まで、この場所で八王子盲学校の教育活動が行われています。旧校舎の経営企画室があった辺りに、八王子空襲でも残った臨床実習室がありました。

